

広報 きたうら

昭和63年6・7月号

No.279

発行 北浦村役場 編集 調査企画室
茨城県行方郡北浦村山田2564-10 ☎311-17☎0291-5-2111(代)



村民憲章

- 心身を鍛え教養を深め
文化の香り高い村をつくりましょう。
- 北浦の湖水と緑豊かな環境を大切にし
美しく清潔な村をつくりましょう。
- 時間ときまりを守り
秩序ある平和な村をつくりましょう。

- お互いに助け合いまごころの通う
明るい村をつくりましょう。
- 仕事に誇りをもち
活力ある村をつくりましょう。

村の花/きく、村の木/ひのき、村の鳥/うぐいす

農薬空中散布を考える

アンケート結果・座談会

簡易水道工事起工式

発掘現場を公開

庁内人事

ふるさとの民俗

毎年、夏になるとヘリコプターでの農薬空中散布が行われます。

黄萎病防除のために始められたこの事業も今年で24年目となります。かつての増産の時代から減反の時代へ。そして、農業を取りまく状況も大きく変わりました。

(写真は昭和39年
第1回空散)

空散



農薬空中散布を考える

— 実態・効果・安全性は —

空散は昭和39年から

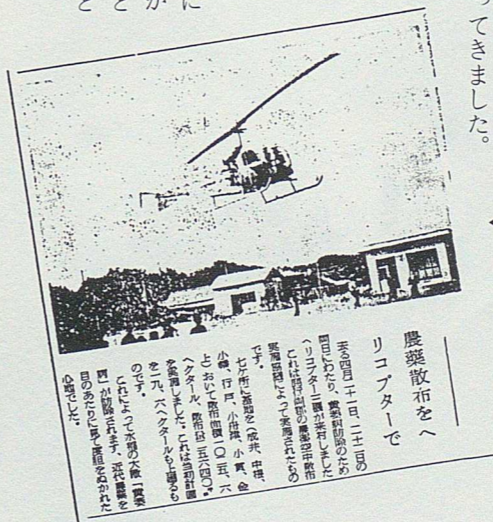
村では、稲作の安定多収を目指して、毎年8月に穂首イモチ病とカメ虫の同時防除をするため、空中散布を実施してきました。

しかし、近年薬剤による書が問題として出てきたことや病害虫の発生が少なくなってきたこと、あるいは転作面積の増加等から、空中散布を取りやめてもらいたいという声も出されています。

今回はアンケートの結果、座談会などを通して、この「空散」について考えてみます。

一等と三等あるいは規格外では、米の値段は大きく違います。農家収入の米依存率が下がっているとは言え、これは重大な問題です。「より良い米」は、水田農家により多くの収入をもたらすものなのですから。

昭和39年4月の広報紙

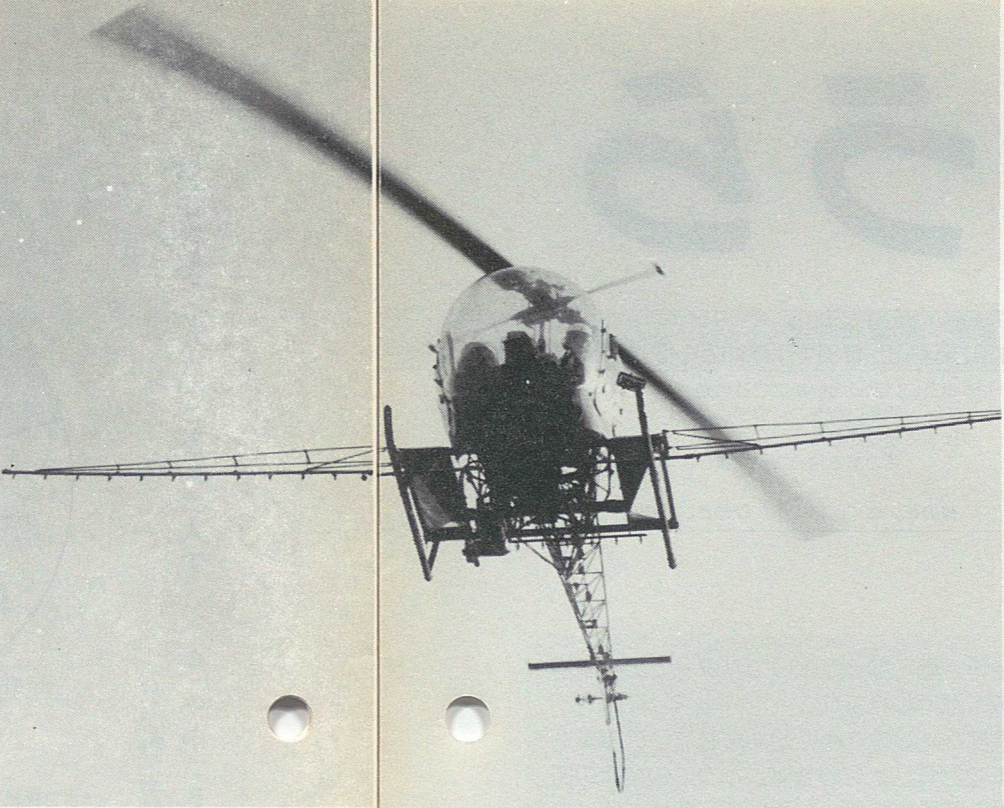


村で水田の空中散布が始まったのは昭和39年のこと。当時の広報紙を見ると、「：これによって水稲の大敵黄萎病が防除されます。近代農業を目的のあたりに見て度胆をぬかれた心地でした」と書かれています。それ以前の記述を見てみると、その当時の農家がいかに稲の病気に悩まされていたか、そして、その対策として空からヘリコプターが現れ、一斉に薬を撒いた時の驚きが大変なものであったことが伺い知れます。

まさに、空中散布は「近代農業」の象徴であったのです。その後、病害虫の駆除対象や農薬の種類は変わりましたが、これまで、空中散布は毎年実施されてきました。農薬を撒くことにより、着色粒の少ない、より多くの米がとれるようになったのです。

そして、「夏の空散」は水田農業にとって、なくてはならない、あたりまえの年中行事のようになってきました。

もちろん、現在の水田農業では、除草剤や殺虫剤は必要なものですが、秋の米の検査の時、虫に食われた米粒が少しでもあるとそれは一等米とはなりません。



アンケートを実施

昨年の8月、村に対して、「空中散布をやめて欲しい」という要望書が提出されました。この要望書は、無農薬栽培を行っている農家の方々が中心に提出されたものでしたが、その内容は、散布日時が変更になり学校の登校日に重なること、空中散布の効果

への疑問、危険性、注意事項の不明確さなどとなっていました。また、一般の水田農家からも、あまり効かないのではなにか、という声もありました。さらには、転作減反を第一に進めているのに空中散布を行う積極的な意味があるのか、

という厳しい意見もありました。このようなことから、村では今年の2月から3月にかけて「農薬空中散布に関するアンケート」を実施し、水田農家の方々にご意見を伺うことにしました。

アンケートは取りあえず、空中散布に対して最も利害がある水田農家一、四八三戸を対象に行いました。このうち

約半数の方々から回答をいただき、うち約六割の農家では「空中散布は続けてほしい」と積極的支持をする一方、「やめた方がよい」という意見は、二割弱となっています。このことは、アンケートで見ると、かなり多くの方が空中散布は、続けてほしいと思っていることをうかがわせるものでした。

協議会でも、人や家畜に対する危被害は憂慮するものがあるが、現在の段階では、その資料にも乏しく、また、米価の引き下げなどで、厳しさを増す水田農業の実際を考えると、病害虫の被害はできるだけ防止したいという意見が大勢を占めました。

これらの経緯を経て、7月11日、役場会議室において「北浦村病害虫防除協議会」

協議会では、アンケートの集計結果などを勘案し、今年

が開かれました。効果や安全性については、一部に疑問を指摘する意見も出されていることから、今後の検討課題でもあります。

63年度は例年どおりに

イモチ病などの対策に一年に一回は空散をやってもらいたいね。それと、どうせ散布するならば7月中に散布してくれるといいと思いますよ。



阿部 定雄さん (55歳 小貫)

米の状況はいろいろあるけど、やってもらった方がい。ハス田への影響とか聞くけど、田んぼの場合は畑と違って薬ふりが大変だから。



斎藤 均さん (65歳 北高岡)

薬が効けば、空散はやってほうがいいけど。今は効くかどうかよくわからないね。農薬代も取られるわけだけど、効果ははっきりわからないね。



高柳 長雄さん (55歳 繁昌)

必要なし。理由は効果がないから。今は米づくりに面倒を見過ぎだね。百姓いじめもあるけど、もっと自由に米づくりをさせたらどうか。あとは農家の自助努力。

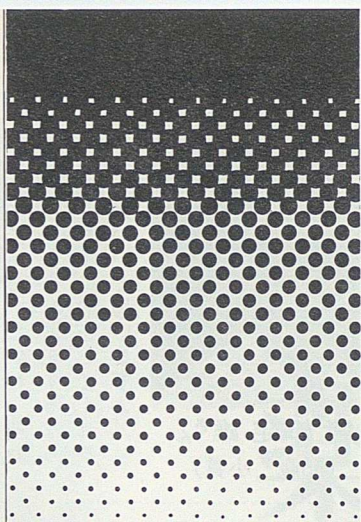


平山 貞夫さん (63歳 吉川)

農薬は良くないと思っています。今の農業では農薬全般では言えませんが、少なくとも、注意事項も守れない、民家や周辺にも影響が心配される空散には絶対反対です。

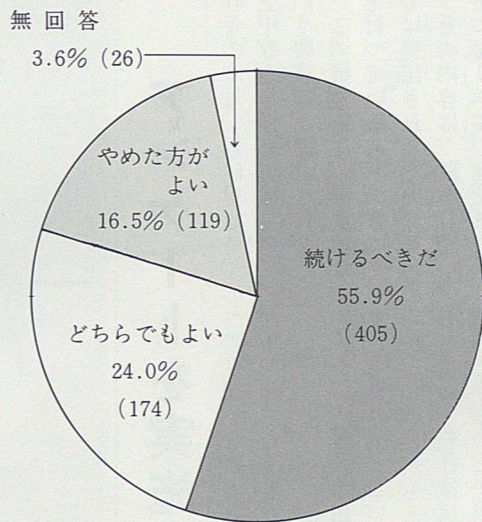


竹島 修さん (29歳 小貫)

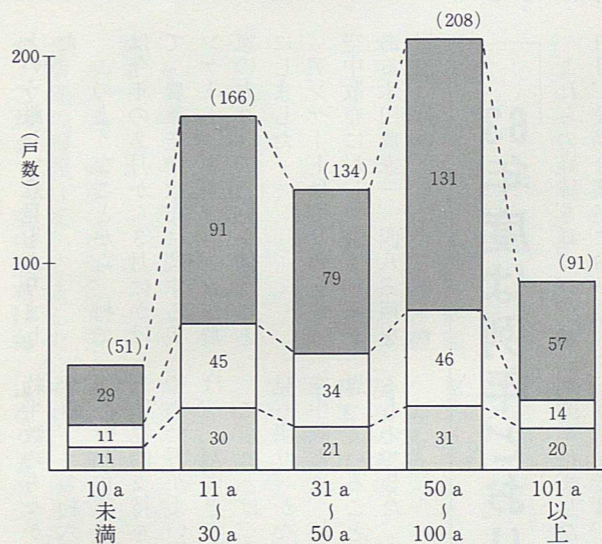


アンケート調査結果から

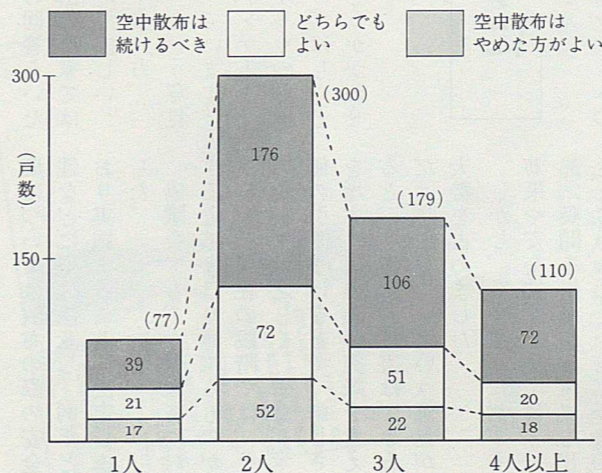
○空中散布の今後のあり方について



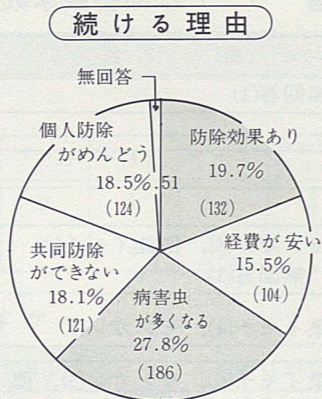
○あなたの家の経営規模（水田）はどのくらいですか



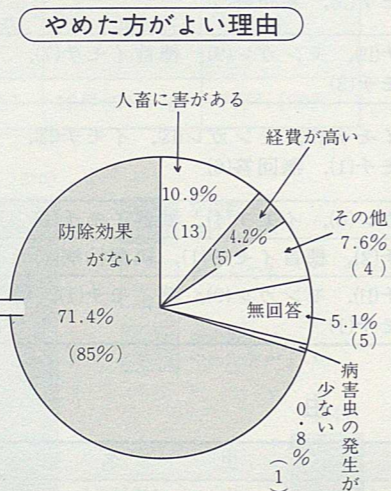
○あなたの家の労働力は何人ですか



○「続けるべきだ」と答えた人で



○「やめた方がよい」と答えた人でその理由は何ですか



◆おもな稲の病虫害

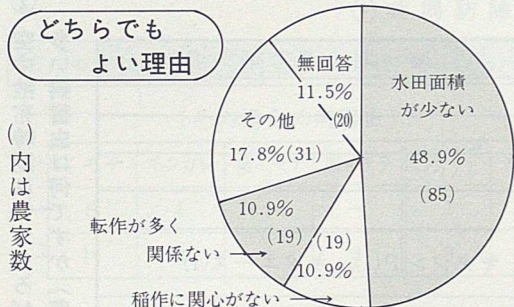
【イモチ病】イモチ病菌というカビによっておきる病気。イネの病気の中で最も恐ろしく被害も大きい。発生する部位、時期、誘因、状況などによっていろいろな呼び名がある。イモチ病菌はモミや被害ワラの病斑組織中で菌糸の形で越冬し、春に活動を開始する。発病は気象条件に大きく左右される。

【モンガレ病】一種のカビによっておきる病気。葉と葉鞘を侵す。病斑の上にある褐色の粒が菌核。茎と茎の間の白い糸のようなものが菌糸。菌核は土壌に落ちて越冬し、代かきなどの際水面に浮かびイネ株に漂着する。畦畔の雑草などにも発病し、その菌核も伝染源となる。気温が高い真夏に発生が多い。

【縞葉枯病】ウイルスによっておきる病気。シマハガラウイルスはヒメトビウンカなどの媒介虫によって運ばれる。媒介虫は麦畑ある

【イネズミゾウムシ】以前からアメリカで知られていたが、日本で確認されたのは昭和51年。越冬虫は葉を食害し、幼虫は根を害する。

○「どちらでもよい」と答えた人でその理由は何んですか



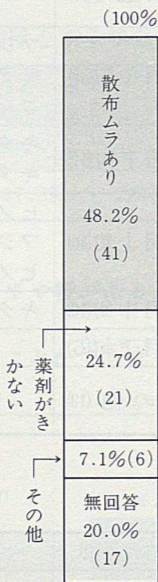
()内は農家数

○水稻の防除方法について(I)

①収穫に最も影響すると思われる病虫害は

- ① 葉イモチ (146)
- ② 穂首イモチ (142)
- ③ モンガレ病 (64)
- ④ 枝梗イモチ病 (13)
- ⑤ 縞葉枯病 (2)

続けるべきだと答えた方



害虫

- ① カメムシ (104)
- ② イネズミゾウムシ (99)
- ③ ウンカ (48)
- ④ ツマグロヨコバイ (39)
- ⑤ メイ虫 (20)
- ⑥ イナゴ (2)

① 共同防除をしますか

㊦ する	19戸 (160%)	㊧ しない	49戸 (41.2%)	無回答	51戸 (42.8%)	計	119戸 (100%)
------	------------	-------	-------------	-----	-------------	---	-------------

(その場合の病害虫)

イモチ	モンガレ	葉イモチ	穂イモチ	イネミズゾウムシ	カメ虫	ドロオイ虫	ウンカ	メイ虫	イナゴ	ツマグロヨコバイ
5	4	1	—	1	3	1	2	1	—	1
14	9	3	3	9	9	6	6	3	1	—

② 個人防除で対応しますか

㊦ する	54戸 (45.5%)	㊧ しない	19戸 (160%)	無回答	46戸 (38.6%)	計	119戸 (100%)
------	-------------	-------	------------	-----	-------------	---	-------------

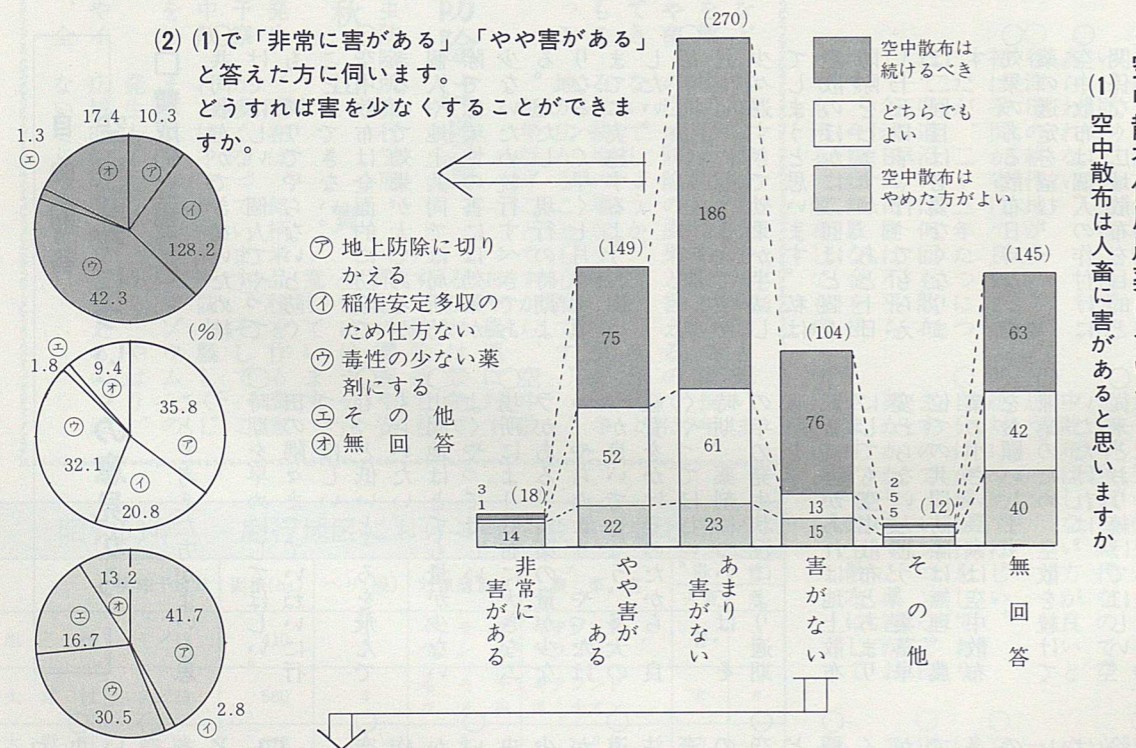
①, ② でアと答えた方, 共同又は個人防除をする場合経費はどうすればよいか

集落(班)単位で共同防除を行ない防除機等に助成が必要	農薬代に助成が必要	稲作の省力化できる助成事業をすすめる	その他	無回答	計
6戸 (8.2%)	35戸 (47.9%)	7戸 (47.9%)	7戸 (9.6%)	18戸 (24.7%)	73戸 (100%)

○ 水稻の防除方法について(II)

やめた方がよいと答えた方

○ 空中散布使用農薬について(1) 空中散布は人畜に害があると思いますか



(3) (1)で「害がない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか

回答意向別	朝早く散布するので問題ない	薬剤がかかっても人畜に害がない	その他	無回答	計
続けるべき	44 (57.9)	21 (27.6)	2 (2.6)	9 (11.9)	76 (100)
どちらでもよい	6 (46.2)	5 (38.4)	1 (7.7)	1 (7.7)	13 (100)
やめた方がよい	7 (46.7)	4 (26.7)	2 (13.3)	2 (13.3)	15 (100)
計	57 (54.8)	30 (28.8)	5 (4.8)	12 (11.6)	106 (100)

病害 () は回答農家数

病害名	防除適期	適期薬剤名
イモチ(1), 無回答(1)	4月下旬(2)	
イモチ(1)	4月中旬(1)	
イモチ(1)	5月下旬(1)	
イモチ(2)	6月上旬(3)	
イモチ(7), モンガレ(3), 穂首イモチ(2), 葉イモチ(1), 無回答(1)	6月中旬(14)	クタジンP(1), キタエース(1)
イモチ(10), 葉イモチ(4), モンガレ(1)	6月下旬(14)	クタジン(1), フシワン(1), タフジン [®] 粉剤(1)
イモチ(8), 葉イモチ(6), モンガレ(5), 穂首イモチ(2), 枝梗イモチ(1)	7月上旬(23)	バリタジン(1)
イモチ(18), モンガレ(11), 葉イモチ(6), 穂首イモチ(3), 無回答(3)	7月中旬(35)	フジワン(1), キタジン(1), キタジンP(1), バイダシン(1), コンラップ(1)
イモチ(19), モンガレ(9), 穂首イモチ(7), 葉イモチ(3)	7月下旬(41)	クタジン(2), バイダシン(2), キタジン粉剤(1)
穂首イモチ(17), モンガレ(13), イモチ(12), 葉イモチ(1), 無回答(6)	8月上旬(40)	ヒノバイジェット(3), キタジン(2), フジワン乳剤(1), バリタジン(1), ヒノラブバイバッサ35粉剤(DL)(1)
モンガレ(6), イモチ(4), 穂首イモチ(1)	8月中旬(10)	クタジン(1)
イモチ(2), 穂首イモチ(1), 縞葉枯病(1)	8月下旬(5)	
イモチ(11), モンガレ(9), 葉イモチ(1), 穂首イモチ(1)	その他 (19)	

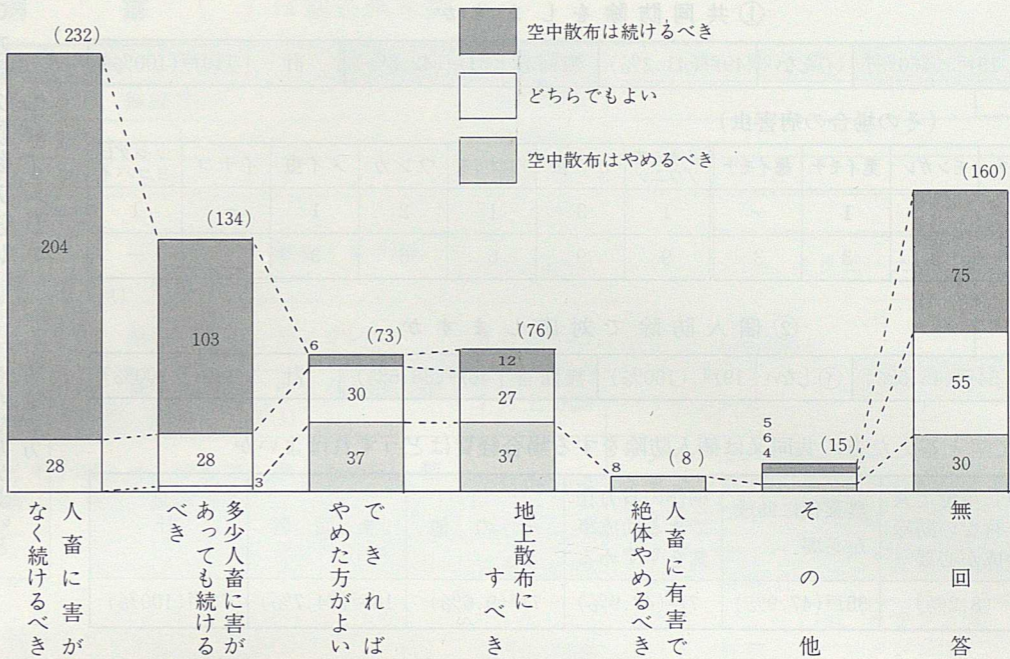
害虫

害虫名	防除適期	適期薬剤名
ウンカ(1)	4月上旬(1)	
イネミズゾウムシ(3), カメ虫(1), ドロオイ虫(1), ツト虫(1), ニカメイ虫(1)	5月中旬(6)	バイジェット(1)
イネミズゾウムシ(4), カメ虫(1), ドロオイ虫(1)	5月下旬(8)	フジワン(1), アドバンテージ(1)
イネミズゾウムシ(11), ドロオイ虫(1)	6月上旬(14)	バイジェット(1), バダグン粒剤(1)
イネミズゾウムシ(9), カメ虫(1), ツマグロヨコバイ(1), 無回答(1)	6月中旬(12)	アドバンテージ(1), バイジェット(1)
イネミズゾウムシ(4), ウンカ(1)	6月下旬(6)	オルコン粒剤(1)
カメ虫(4), ウンカ(5), ニカメイ虫(2), ツマグロヨコバイ(1), イネミズゾウムシ(1), ハムシ(1)	7月上旬(16)	アドバンテージ(1)
カメ虫(5), イネミズゾウムシ(5), ウンカ(4), ニカメイ虫(2), ツマグロヨコバイ(2)	7月中旬(21)	オルコン粒剤(1)
カメ虫(10), ウンカ(7), イネミズゾウムシ(3), ニカメイ虫(1), ツマグロヨコバイ(1)	7月下旬(25)	スミチオン(1), キタジン(1), バイジェット(1)
カメ虫(15), ウンカ(11), イネミズゾウムシ(1), ニカメイ虫(1)	8月上旬(28)	バイジェット(6), ヒノラブバイバッサ35粉剤(PL)(1)
ウンカ(5), カメ虫(4), ツマグロヨコバイ(1)	8月中旬(11)	マラソン(1)
ウンカ(2), カメ虫(2), ドロオイ虫(1), ツマグロヨコバイ(1), イネミズゾウムシ(1)	8月下旬(8)	ハクサップ(1)

② 空中散布時期はいつごろがよいと思いますか。また、最も被害の多い病害虫は何ですか(薬剤名も記入)

続けるべきだと答えた方

○空中散布のあり方について
結論をお伺いします。



自由回答
空中散布についての意見から

□賛成の立場から

○共同散布ができないため続けてほしい。個人でやっても、隣りでやらないと防ぐことができない。

○空中散布は全面的に防除できるので効果が大きい。個人や地上共同では局所防除で伝染性の害には効果が少ないため続行すべきである。ただし、現行の時期よりなるべく早く七月中旬頃までに実施するようお願いしたい。

○毎年同じくらいの時期（八月上旬）に行うようですが、少々遅すぎて効果が半減してしまふと思います。私は空散のほかに二回ほど個人防除をしますが、あと十日〜十五日早く行ってもらえば二回目は必要なくなりま

○効果のある散布日時及び農薬の選定を望む。

○空中散布は個人の作付けに関係なく広域散布を目的とし、病害虫のものをなくす

○共同散布ができないため、田の隅々までいいに行

○もつと低いところを飛んでもらいたい。

○山間地はとも量が少ない。よくやってほしい。

○場所により散布に大きなムラがある。農薬の量が少ない。やらぬより、やったほうが良いでしょう。多大の経費をかけるのだから、良くやってほしい。

○時期、薬剤については、その年の発生状況により適期を。

○人畜に害があれば地上散布にしても空中散布とあまり変わらないと思う。集落単位での共同防除は無理。農業の小さい農家は空中散布をお願いしたい。

○兼業のため、空散を続けていただければ。

○従来どおり続けてほしい。他町村もやっているのでは

○虫害のない良質米を作りたい。

○空中散布は日付と時間が決まっているので別に今までもおりでいいと思う。

□どちらでもよい

○空中散布をやめる場合は転作の補助金に向けてはどうか。

○いつも散布時期が遅く病害虫が出てからなので、もう少し早く適期にやれば効果があると思う。

○道路や人家の近くでは特に注意してほしい。もつと人畜に害のない薬剤はないものか。

○空中散布の害については、どの程度か良くわからない。稲作の場合現在の状況ではイモチ病は割と少ない。かかったとしたら八月の防除では間に合わない。今一番多いのは八月に入ってからモンガレ病です。モンガレ病が空散できないとすればやめた方がよい。害虫防除は散布した場合としない場合の効果がはっきりと出

れば考えたい。

○空中散布を行うと行政機関が決めたら平面的にやることはいろいろ問題の残る時代ではないかと思う。その年の気候や農業行政の動きを見極めながら農民のコンセンサスを求めることと同時に適切な営農指導を加えて行うべきだ。

○なるべくは、やってもらった方がよい。個人でやることになると経費の面でも違ってくると思う。誰かに頼んでやるようなことになる。どうせやるなら、ムラのようにかけて欲しいと思います。

□やめた方がよい

立場から

○現在は米過剰であるから、無農薬で生産したほうが良い。

○レンコンと稲作の混同した地区では完全な空中散布は無理である。よって必要を考えない。

○絶対をやめるべき。効かない。

○空中散布は効きめなしであります。頼りにしていて数

年前にひどい目にあつたことがある。それ以来防除回数に入れた事もなく、祭りのつもりで見物しています。

○転作をしているので、なぜ空中散布をする。

○費用がかかり過ぎるのでやめたほうが良いと思う。

○反当たりに対する薬剤の散布量が少なく、また気象条

空中散布の前身は、農協などで背負い機械によって農薬を散布していたものですね。虫や菌類は、だんだん耐性をもつてきますから、空中散布の歴史もこういう虫や菌との追いかっこのようなものです。

広域的防除は必要

茨城県病害虫防除所鹿行支所 支所長 秋山 實

は、毎年、水田を調査するとともに、その年の気象条件なども勘案した、病害虫の発生予察を行っています。この予察に基づき、農薬の選定や空中散布の実施時期のアドバイスをしています。

たしかに、現在は病害虫やイモチなど菌類による被害は、全

件により散布地に落下しない。従って病虫害に効果があらわれない。

○谷津田の耕作地が多い。最初は手間が省けて良いと思つたが、二〜三年たつにつれて県道沿いは何回も散布して谷津田の田圃は不平らです。今後は無駄な金を掛けても困る。散布しても病

気と虫類の効果が全くない。この不景気な時代なので空中散布はしない方がよいと思

○絶対にやめてほしい。

○自分は全部転作をしておりますので、レンコンなどに薬がかかりますと薬害がおりますので地上散布にしてほしい。

○山あいの田で空中散布をしても効果がない

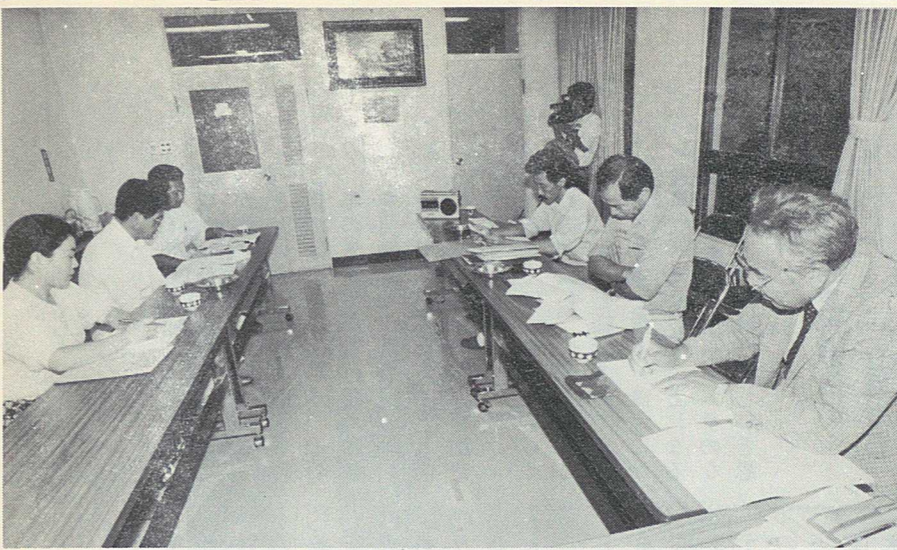
実施予定日	面積(ha)	ヘリ(機)	対象病害虫	農薬名	毒性		
					毒人畜	魚	
旭村 7/13	410	3	イモチ病	キタジnPマラソン	普	B	
大洋村 7/29	580	4	イモチ病	キタジnPスミチオン	"	"	
大野村 7/29	677	4	"	"	"	"	
麻生町 8/3・4	1,520	10	"	ヒノバイジット	劇	B	
北浦村 8/5	840	6	"	"	"	"	
玉造町	7/12	1,175	5	イモチ病	キタジnPバリダシン	普普	B A
	8/6	1,175	5	イモチ病	ヒノバイジット	劇	B

※人畜に対する毒性区分→毒物、劇物、普通物
魚介数毒性→A類=事故の発生のおそれほとんどない。B類=一時に広範に使用の場合は注意要する。

座談会から

出席者

- 中村 恵一 さん
- 中島 紀一 さん
- 椎名 功 さん
- 石橋 通男 さん
- 鴻江 誠一 さん
- 小沢 輝子 さん



アンケート、そして今の考えは

— お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。事前にアンケート集計結果などの資料をお配りしてありますが、それらの感想などを含め自己紹介をお願いします。

椎名 今年の北浦村の水稲作付け面積は、約六〇〇ヘクタールほどになるかと思っています。これは、粗生産額にすると7億から8億円になります。

農家としても、生産コスト、省労力化、散布者の安全性などを考えて、これまで空中散布が一番良いのではないかと毎年実施してきたわけです。しかし、最近の転作地の増加と水稲面積の減少、そして農薬の安全性に対する不安などが聞かれるようになり、役場としても空中散布を見直してみようと今回アンケートを実施したわけです。

これをみますと、続けて欲しいという意見が五六%、どちらでも良いという方が二四%、やめた方が良いという意見が一六%となっています。また、アンケートの結論として聞いて見ると、どちらかというと続けた方がよいという意見が過半数を越えています。これらのご意見や防除所の予察などを参考に、7月11日に北浦村病害虫防除協議会を開催したわけですが、この席上で、本年も空中散布を実施しようということに決定したわけです。

石橋 昨年と今年の生産者米価の引き下げなどもあり、農家としても省力化ということがより重要になってきていると思います。その点、空中散布は農家の省力化に必要なものだと考えています。また、現実には田圃などを見ていると個人で病害虫の薬を撒いている

る人をあまり見かけません。空散に頼っているのが現状ではないでしょうか。

鴻江 北浦で百姓を始めて、今年で10年になります。畑、鶏そして田圃も少し作っていますが全て農薬は使いません。今、農業のことがいろいろと騒がれています。これは私たちより切実に考えている方が多いと思います。予想として二つの方向があると思うんです。一つは、合理化を進めて大規模にやるか、もう一つは、作物に付加価値をつけて売るかのどちらかです。で、私たちは農薬を使わない安全な作物を有機農業で作って行こうと考えているわけです。これからは、自由化も考えられ、とても価格競争では勝てないと思うんですよ。

もちろん、無農薬で作っていますから基本的に劇物を撒く空中散布は反対です。これは空から一方的に降ってくる

空散の問題を話し合うことは

北浦農業の将来を語ること……

—— 中村（北浦村農業振興研究委員会・代表）

わけですから、周囲に何らかの影響が考えられます。特に昨年などは、いろいろな事情でそうなったんでしょうが、学校の登校日と重なり、子どもたちの登校中に空散が行われました。これは安全より、へのスケジュールが先行したのではないのでしょうか。また、チラシの注意事項を守っている人もなく、実際には守

まいます。そういうことを考えると複雑な気持ちになります。が、毎日口にするものですか、やはり、できれば農薬は使わない方がよいのではないかと思います。

中島 今の課長さんの説明を聞くと、アンケートの回収率がおよそ五割で、続けて欲しいと言う人が五六%だったということが、私の印象からすると少ないなあ、という感じがします。ごく常識的には、もう少しあるかなというところでしょうか。ですから積極的に賛成とは言いきれない農家も結構あるのではないかと感じます。

ところで、穂首イモチやカメ虫をこいう防除で果して抑えることができるかという、私は、ほとんどできないだろうと思います。

まず、穂首イモチですが、ただやたらに薬を撒いてもだめで、葉イモチから穂首イモチに移行するタイミングに殺菌剤を撒くことが必要なわけです。やはり田を一枚一枚見て、本当に必要な田に撒けばいいわけで、もし全面に必要なら空中散布一回ぐらいでは

納まらないはずですが、それから8月上旬では遅すぎます。ですから、それが一回でいいということは、ほとんどの田でそういう心配がないということなんです。また、田を一枚一枚見ることによって防除面積は今の一〇分の一ぐらいに減らすことが出来るようになると思います。もちろん、これはその年の状況によって違いますが、こういうことから、殺菌剤の散布は気安め的でほとんど効果がないと思います。

それからカメ虫ですが、たしかにバイジットのような薬を撒くとカメ虫は死ぬんですが、カメ虫に関してはその発生からのメカニズムがほとんどわかっていないんですね。防除と発生量の関係が一番わからないのがカメ虫なんです。また、農薬散布と被害の関係があるというデータもないわけです。

ただ、農家に不安があるんですね。検査で三等になったり自主流通米で売れないとかカメ虫を空散でやるかどうかは各地で問題になっているわけですが、山形の米沢の近く

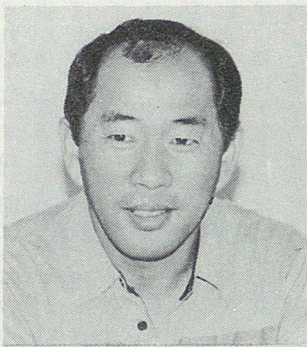
では、空散をやめた地域の方が、空散を実施した地域よりカメ虫の被害が少なかったという報告もあります。これは研究者に言わせると、あたりまえでカメ虫の生態はそんなに単純なものではなく、また大発生したから被害が多くなるという話でもないわけですから大発生のピークを抑えようというイメージでやっている農薬散布では納まらないわけですよ。やはり、もつとカメ虫の生態を丁寧に見ながらカメ虫の全体レベルを下げようと考えないと、このような大ざっぱな防除では、意味がなくなってしまうんです。

そういう意味で、率直なところ、この二つの病害虫に空中散布をするということは、効果の点で、ほとんど効果がないと言えます。

それから、効果がないだけじゃなく、ひよつとすると、病害虫を促進してしまう危険性も心配されるわけです。農薬を撒く場合、田一枚一枚撒いていけばクモなどは畦に逃げて行くんですね。ところが空散の場合は、逃げる所がない。およそ自然界では、害虫



中村 恵一 さん
— 元農業研究センター 畜産経営研究室長
将来の北浦村の農業の方向をどうするか。それを空散の問題から考えていきたいと思っています。



中島 紀一 さん
— 筑波大学 農林学系助手
空散の問題は効果と安全性の問題から、もつと考えるべきではないか。また、農業そのものも

でも虫でも大発生することがまれなんです。卵は一匹の虫が何千個と生むわけですがほとんどが小さいうちに死んでしまふ、あるいは食われてしまふわけです。そういう自然界のメカニズムを空中散布によって壊してしまう心配です。特に天敵などは広域に散布した場合の方がダメージが大きいわけです。

それから、次に安全性の問題があると思います。これは今まで考えていた以上に問題があるとして厚生省なども基準づくりを始めています。それはどう話聞いています。それはどういうことかと言うと、農薬の濃度の問題なんです。今までは薬を撒いた直後が一番濃度が高くて後は薄くなるだろうと考えていたわけですが、最近の調査で、一週間たつても濃度が下らないというデータが出てきたんですね。これは、農薬が揮発するというところから、こういうデータが出てきたわけですが、今まで考えたこともなかったことなんです。空散で言いますと、液体の高濃度のものを散布するわけですが、そうすると、液

体の表面積が増大して、降りてくるまでに農薬が揮発してしまふんですね。そして、それが空気中に長い間漂った状態になるわけです。農薬の人体に対する害の経路は、口から入る、皮膚から入る、そして、鼻から吸い込むということが考えられますが、人間の肺のメカニズムは酸素を取り入れるために、吸着、吸収が非常に高いわけです。そうであるなら、空散後も農薬の成分が空気中を漂っているということは重大なことになるわけです。

それから、もう一つ安全性の問題ですが、空散をしている作業員の安全性があると思ふんです。これはアメリカのデータですが、低毒性の農薬のほとんどが発ガン性があるという事です。殺菌剤ですと約九割、殺虫剤ですと約四割が発ガン性があるとされています。立ち会いの方や作業員の方は、場合によっては高い濃度の農薬をあびることも考えられますから、これも問題があると言えます。

三番目ですが、これからの北浦の稲作を考える時、どう

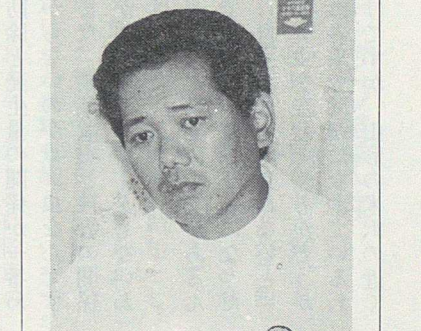
いう方向が良いかという問題があると思います。最近、茨城県の経済連でも有機質肥料五二%、低農薬の米を「天恵米」としてありますが、これが注目されているわけです。米穀業者もこの市場に注目しています。需要があるわけです。これは茨城の米の重要な戦略だと思ふわけですが、今これをやっているのが、他では千葉、岡山なわけです。これは今後も出てくると思ふます。これまでもどおりの作り方で、今後も茨城県コシヒカリとして消費者に喜ばれる米が作っていかれるかという課題でもあります。米の消費には上限がありますから、その下で、どの県の米がシェアを上げていくかを占うものだと思います。この有機質肥料、低農薬の市場は手つかずの状態であるわけです。

また、米の売り方といえば福岡などは銘柄米でなくとも減農薬米に自主流通米の枠を設けています。さらに、宮城なども空中散布をやめました。が、そういう米は、生協などが独自のルートでさばけています。これらを含め、今後空中

散布をどうするかを村の中

も考えて行つたらいいのではないのでしょうか。

中村 中島先生の方から、ほとんどの話が出てしまいましたが、北浦村農業研究会でも、北浦の農業を考えると



石橋通夫さん
—北浦村病害虫防除員 農業(北高岡)
現在の出荷体制の中では農薬を使わざるをえない。空散は広域防除のため効果はあると思ふ。



椎名 功さん
—北浦村役場産業課長
今年も例年どおり空散を実施します。農家の要望があれば役場としても実施して行かなくてはならない。

これまでの空中散布は

やはり、「安全な食べ物」は北浦の大地から」という10年、20年後を展望したものになると思ふます。

その統一の方向ですが、あくまでも現実が基本ですから、この話合も、言わば、その一つだと思ふます。

空中散布を考えるとき、このアンケートを見てもそうなんですが、空中散布というも

のを正確に理解できていない。これは私たちが技術者もそうなんですが、わからないことが沢山あるんですね。そこで今回は、日本でも空中散布問題では第一人者の中島先生にお出でいただいたのは、この空中散布をより正確に理解して行きたいと思つたわけです。

—無農薬・有機農業農家 空散を実施されると困る農家もあります。またその危険性も無視できないものがあります。



小沢輝子さん
—北浦消費者友の会 主婦(繁昌)
消費者としては、農薬は使つて欲しくないです。ただ、農家のことも考えると難しいですね。

—ここで、農薬の安全性はまた後で話し合うとして、北浦村では昭和39年から空中散布を実施してきたわけですが、農家の立場としてはどう思っているかを石橋さんからお願いしたいと思います。

石橋 そうですね、以前は粉剤で結構効いていたと思ふます。年に二回散布していた時期もありましたから。それと実際問題として、コシヒカリですと一と三等では、一俵あたり一七〇〇円ほどの違いがあるわけです。検査のとき

—ここで、農薬の安全性はまた後で話し合うとして、北浦村では昭和39年から空中散布を実施してきたわけですが、農家の立場としてはどう思っているかを石橋さんからお願いしたいと思います。

石橋 そうですね、以前は粉剤で結構効いていたと思ふます。年に二回散布していた時期もありましたから。それと実際問題として、コシヒカリですと一と三等では、一俵あたり一七〇〇円ほどの違いがあるわけです。検査のとき

—ここで、農薬の安全性はまた後で話し合うとして、北浦村では昭和39年から空中散布を実施してきたわけですが、農家の立場としてはどう思っているかを石橋さんからお願いしたいと思います。

石橋 そうですね、以前は粉剤で結構効いていたと思ふます。年に二回散布していた時期もありましたから。それと実際問題として、コシヒカリですと一と三等では、一俵あたり一七〇〇円ほどの違いがあるわけです。検査のとき

—ここで、農薬の安全性はまた後で話し合うとして、北浦村では昭和39年から空中散布を実施してきたわけですが、農家の立場としてはどう思っているかを石橋さんからお願いしたいと思います。



—取材で村内を回つてみましたが、やはり今は、田にいる人が少いですね。これで、米だけの専業農家は北浦でどのくらいいるものなのでしょう。椎名 今、数学的な資料はありませんが、北浦村の場合

田と畑を耕作している人がほとんどで、専業で米だけの収入でやっている方は少ないでしょうね。また、兼業化も進んでいます。

— 石橋さんのところでは、どのくらいの水田面積ですか。石橋 私、借地も含めて一七ヘクタールほどです。

— それは規模が大きい方ですが、畑もつくっていますね。農業収入ではどちらのウエイトが大きいですか。

石橋 正直なところ畑の方でしょうね。どこの農家でも田だけではやっていけませんから、畑もやる。そこで、どうしても田圃は少しでも労力を省いて、どちらかと言うとお金になる野菜とか、よそに力が入って行くわけですね。

その結果、水田にあまり足を運ばないというのはあると思います。

中島 北浦の場合、農業の粗生産でいうと米は決して無視できない、米がダメになったら北浦の経済は大変なダメージを受けるわけですね。ただ、そういう米が魅力がなくなっちゃっているのが、北浦が、じいちゃんやあちゃん

— 収入としては、無視できない、にもかかわらず、それに賭けようという気になったら、米でがんばろうという気になるが、米でがんばろうという気にならない。と言うのは、やはり、減反以降のこの10数年、米が社会的に評価されてこなかったということがあると思います。

しかし、今、低農薬などの米でがんばっているところは、必ずしも米の専業地帯ではないんです。福岡なんかは、博多のど真ん中で米づくりをしている。これで農薬を減らして消費者に喜んでもらい、なおかつ、そこそこの収入になると、米づくりが面白くなってくるんですね。そういう意欲をこれからの北浦の米から引き出していかれるか、米をほったらかしにしてこれからの北浦の農業をつくって行けるか問題だと思っています。

やはり、米だってお年寄りも作っているわけで、先ほどの福岡の例で言うと、始めはじいちゃんや主婦の方が始めたわけですね。稲作研究会は老人会のようなものです。ところが、じいちゃんやあちゃん

農家も本当は薬をふりたくない

— 薬剤の選定は防除所が行うんですか。

椎名 基本的には村の協議会で決めます。

小沢 私も詳しくわかるわけではありませんが、農家の皆さんは、沢山いい物を作ろうとしているんだと思うんですよ。また、消費者の方でも、農薬は悪いんだと思うけど、それほど気にしていないという面もあります。しかし、子どもたちのことを考えると、それが目に見えないものだけにどうなるんだらうか、という不安があります。

— 今、中村先生から、消費者がそういう安全な食料を支えるというお話が出ましたが、これについては小沢さんなどはどう思われますか。

小沢 今までは、個人ではそう思っても、お店に行けばそういう商品がないわけですから、結局あるものを買ってしまおうということになっているのではないのでしょうか。

— ところで、農薬の人体に対する蓄積はどうなんですか。

石橋 それはそうですね。中村 安全性のことで言えば、農林水産省の構造改善局でも

中島 一般には殺菌、殺虫剤

があんまり熱心にやるものだから、だんなさんたちも、少しやるしかないかと、都合がつけば勤めを休んで田圃に出るようになった。雰囲気がいぶん変わったわけですね。そういう意味から、たしかに今、田圃に関心がなくなっているんじゃないか、このへんのことをキツカケにして米に意欲を引っぱり出して行くことは、長期的に見ても必要なことだと思います。

— ところで、もう一度、話が戻りますが、鴻江さんは、空散に反対している立場としてはどうでしょう。

鴻江 まあ、今、中島先生の方からいろいろお話があったとおりだと思いますが、空散について言えば、チラシの注意事項ですね。鶏舎には被いをしろとか、野菜は一週間ぐらい出荷しないようにとか、ありますよね。私も鶏を飼っています。夏の暑い時期に被いなどでできませんよね。鶏

なぜ、反対なのか

— ところで、もう一度、話が戻りますが、鴻江さんは、空散に反対している立場としてはどうでしょう。

鴻江 まあ、今、中島先生の方からいろいろお話があったとおりだと思いますが、空散について言えば、チラシの注意事項ですね。鶏舎には被いをしろとか、野菜は一週間ぐらい出荷しないようにとか、ありますよね。私も鶏を飼っています。夏の暑い時期に被いなどでできませんよね。鶏

— ところで、もう一度、話が戻りますが、鴻江さんは、空散に反対している立場としてはどうでしょう。

鴻江 まあ、今、中島先生の方からいろいろお話があったとおりだと思いますが、空散について言えば、チラシの注意事項ですね。鶏舎には被いをしろとか、野菜は一週間ぐらい出荷しないようにとか、ありますよね。私も鶏を飼っています。夏の暑い時期に被いなどでできませんよね。鶏

とも有機リン系のものがほとんどです。これは残留性はあまりないとされていますが、血液中の酵素に働き、神経に悪い影響を与えるものです。農家の皆さんでも、疲れたときなどに薬ふりをして、気分が悪くなったという経験を持っている方は多いのではないのでしょうか。農協の健康診断では必ずこの酵素は調べます。ですから、農薬の問題は、もっと重要に考えるべきだと思います。作物をつくるために農家の方の健康が害されては何にもなりませんから。

— 農薬は水田の方が畑より少ないです。

中島 それは、虫や病気を防ぐのには明らかに畑の方が難しいですから、より多くの農薬を使うでしょうね。水田は全体として病虫害を抑えるメカニズムができています。そこに空散をすると、ある意味で畑の状態にしてしまう危険性があるわけですね。

水田の防除に話を戻しますと、八郎潟の大潟村でのイネミズゾウムシのある防除の仕

— 農薬は水田の方が畑より少ないです。

中島 それは、虫や病気を防ぐのには明らかに畑の方が難しいですから、より多くの農薬を使うでしょうね。水田は全体として病虫害を抑えるメカニズムができています。そこに空散をすると、ある意味で畑の状態にしてしまう危険性があるわけですね。

水田の防除に話を戻しますと、八郎潟の大潟村でのイネミズゾウムシのある防除の仕

— 農薬は水田の方が畑より少ないです。

中島 それは、虫や病気を防ぐのには明らかに畑の方が難しいですから、より多くの農薬を使うでしょうね。水田は全体として病虫害を抑えるメカニズムができています。そこに空散をすると、ある意味で畑の状態にしてしまう危険性があるわけですね。

空中散布の農薬

【ヒノバイジット】
殺菌・殺虫剤、成分=MPP, EDDP (ヒノザン+バイジット), 劇薬 (LD 50), 魚毒性B。
【有機リン剤】
残留度の低い農薬、おもに殺虫剤。血液中や臓器中にあるコリンエステラーゼという酵素の働きを阻害する。このためアセチルコリンという物質が蓄積され神経を刺激し、頭痛、吐き気などの症状がある。血清コリンエステラーゼ値は、正常値の半分くらい減っても自覚症状が現れにくく、個人差も大きい。慢性疲労、肝臓が弱っている人、また妊婦はこの値が低い。

— ところで、もし、空中散布をやらなくなったらどうでしょう。

石橋 やはり、ある程度田圃を作っている人は個人でやるでしょうね。私もやると思います。

中島 もう一つ、どういう時に農薬を使うのかということをもっとよく見きわめた中でやるか、やらないかを議論した方がいいでしょう。

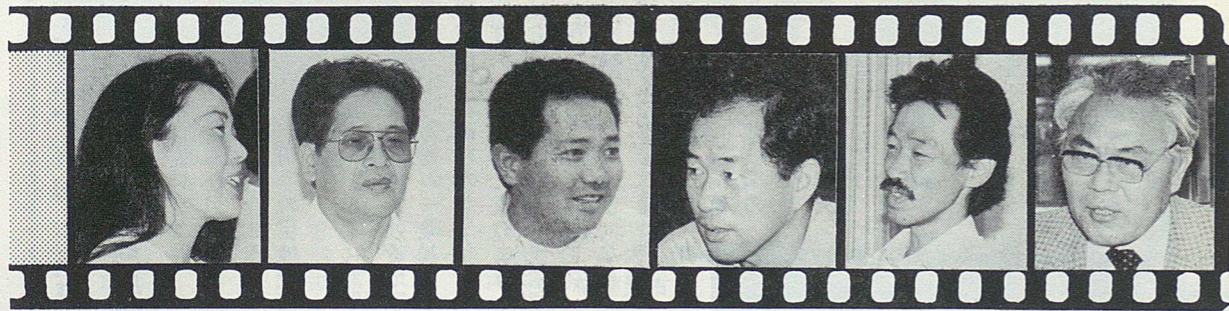
椎名 それに、やめるにしても、より効果があつて、低コストの農薬散布にはどういう方法があるか、わからなければ

— ところで、もし、空中散布をやらなくなったらどうでしょう。



も含めて話されることが必要だと思っています。そして、これは地域の農家の皆さんが話し

合って行くことよって進展して行くことだと思っています。—ありがとうございます。



座談会を終えて

今年、水田農業確立対策に米需給均衡化緊急対策が加わり転作面積もこれまで以上の厳しいものとなりました。このような状況の中で、稲作の安定、多収穫を目指した、空中散布が、何かと話題となってきました。しかし、この論議の中には、農薬の安全性や人の体に対する影響の有無があまり出てこなかったことも事実です。空中散布の農薬に限らず、その安全性や人及び環境に対する影響は、まだまだ未解明の部分が多く残っています。「誰だって農薬は使いたくないし、口にしたくない」みんな、そう思っています。しかし、そうできないところに今の農業の矛盾があるのです。

米の検査では、虫などに食われた「着色米」が〇・一%以内でなければ一等とはなりません。検査用の皿に二粒着色米があれば、それは二等米になってしまいます。なぜ、それほど厳しいのか。それは、米を食べる消費者の要求なのです。

野菜でも、見た目のきれいな、形の良いものが先に売れていきます。買う人も、そうでなくとも味は変わらないうらうというのを知っているはずなのに。生産者は、いつも消費者に喜んでもらう作物を作りたいと思っています。しかし、その要求がある意味で間違っていたものなら、それは生産者が変えて行かなくてはならないのではないのでしょうか。

ばいけないうね。鴻江 私は、最終的には農薬を使わないでもできると思っ

ると思うんです。そうするとどうしても撒き続けてしまう方向になりがちになります。農家が行政に頼っているかぎり、そうならざるを得ないのです。最終的には、これは農家が決めなければならぬ

問題です。たしかに高齢化も進んでいきますし、兼業化も進んでいきます。でも、さきほどの福岡の例なども実際にあるわけですから、前向きに考えていただきたいですね。

これを機会に積極的な展開も

—中村先生がはじめに言われましたが、空散、あるいは農薬を正確に理解する方法、あるいは情報などを知る場が必要なのは確かですね。

—話は尽きませんが、時間もだいぶ経過しましたので、このへんで、これまでの話しを振り返って一言ずつお願いしたいと思っています。

は研究をできる方向で努力していきたいと思っています。石橋 やはり一番不安なのは農家自身だと思うんですが、安全性のことも含めて、先生

椎名 もちろんそれは考えていかなければならないことでしよう。ただ、今のうちに減反で、農家も役場も手いっぱいという状況では、農薬の安全性などまでは、とても関心が出てこないということも事実です。これは、何とかしなければならぬ問題なんです。

中島 この空散のような問題は、本当に農家の皆さんが考えないと、役場とか行政まかせでは、どうしても進まないと思います。もし、病害虫の被害が出たとき、行政では、薬を撒いたんだけど、出

頼らざるを得ない面もあるかと思うんです。ですから、つぎの有効な方法が見つかるまでは、空散については、まだまだ、安全性に注意しながら続けざるを得ないのが実際ではないかと思っています。

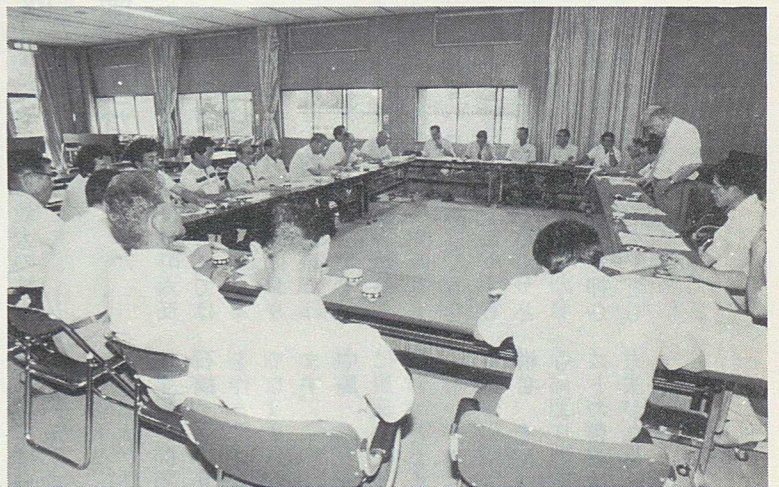
中島 空散は環境に与える影響からも考えて、社会的な問題でもあるかと思っています。私たちも含めて、撒いてもらいたくない人もいるんだということを知っておいていただき

までどおりで、という気持ちもあるでしょうし、他方、米づくりのいかに自信をもってもらうか、ということもあります。また、これは役場だけでどうなる問題でもありませんから、農家の皆さんとともにこれを機会に勉強、あるいは

たいたいと思います。また、これをきっかけに、すぐには行かないと思いますが、無農薬あるいは有機栽培というものにも目を向けていっていただければ、と思います。

中島 こういう問題が、農業を衰退させる方向ではなく、より盛んにさせる方向に進んでくれたらと思います。利害が対立することもありますが、短期的なことでも決着をつけるのではなく、今この問題が、そういう見方

それぞれの対立があっても、大きなところでまとまれば、ただればと考えます。これからの北浦の農業が積極的に展開できるかどうかの機会でもあるわけですから。



▲ 7月11日に開かれた北浦村病害虫防除協議会

南高岡・北高岡地区 簡易水道工事を着工

完成は来年2月

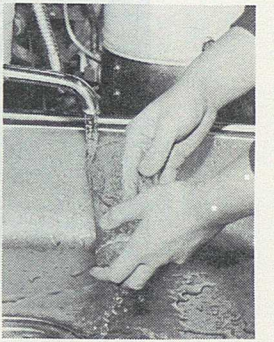
給水は4月1日から



▲ 献 入 れ 式

この工事は、2億6千万円の工事費を要し、来年2月末に完成、試験給水の後、同年4月1日から本格給水を予定しています。

この二つの地区への給水は、繁昌浄水場の井戸と新たに南高岡地区に掘った井戸を水源として行われます。これにより、一部に水質が懸念されていた南高岡地区においても、安心して水道が利用できるようになります。



7月25日、南高岡と北高岡地区に給水する簡易水道施設工事の起工式が、村、工事関係者など約30人の出席のもと、繁昌浄水場で行われました。

この調査は、現在ゴルフ場の建設が予定されている地区内の文化財調査の一環として行われているもので、今年の一月から開始されました。

古代人の住居跡がくつきり 今山、古屋敷発掘現地説明会

北浦村教育委員会では、7月2日、発掘調査が進められている古屋敷跡、今山遺跡（いずれも山田）の現地説明会を開きました。

この調査は、現在ゴルフ場の建設が予定されている地区内の文化財調査の一環として行われているもので、今年の一月から開始されました。

古屋敷跡は、戦国時代末期（16世紀後半）の城で、城主は山田氏と言われています。V字堀を区切った「堀障子」など、小田原北条氏の築城技術の影響を受けた跡が見受けられますが、大きな特色としては、空堀や土塁が一度造り変えられていることです。

また、城跡の周囲からは、古墳時代から平安にかけても住居跡が多数発見されました。



▲ 古屋敷跡



▲ 見つけられた「お米の蒸か」

一方、今山遺跡は縄文時代から中世にかけての住居跡で、古代の集落の変遷をかなり把握することができるものと期待されています。

見学者のみなさんは、広範囲に発掘された遺跡に目を見張っていました。

野犬や猫などは 火曜日に 回収します

「咬傷」とは、人が犬などに噛まれてできる傷のことです。茨城県動物指導センターのまとめによると、昨年、県内では三八二件もの咬傷事故が発生しています。

犬を飼っている方は、県令に定められた正しい飼い方を守り、他人に迷惑をかけるないようにしましょう。ところで、安易に飼い犬を捨てると、その犬が野犬となり咬傷事故の原因となります。やむを得ず飼えなくなった場合は、動物指導センター（笠間市日沢四七〇02961211200）まで届けて下さい。

なお、毎週火曜日には役場においても預かります。野犬や飼えなくなった犬、猫は役場保健衛生課（☎512111内線244）にご連絡の上、毎週火曜日午後12時30分までに持参して下さい。

お年寄りに

給食のサービス

ボランティアグループ「給食サービスの会」（阿須間トシさんほか7名）では、独り暮らしのお年寄りに、お昼ごはんを食べてもらおうと、5月24日から月一回の給食サービスを始めました。

河野しもさん（88歳）とお隣りの河野はるさん（77歳）一両宿一

家で作ると、どうしても味が濃かったり、同じものだったりします。大変でしょうけどこれから楽しみにしています。

不規則になったり、偏ったりしがちになるお年寄りの食生活に、少しでも役だつてもらいたいと、毎月、腕によりをかけて調理に励んでいます。

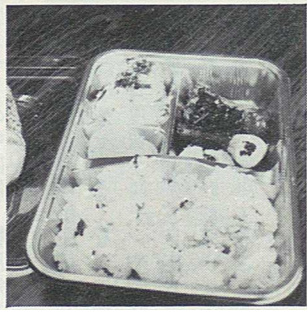
なお、この給食ボランティアに関するお問い合わせは、北浦村社会福祉協議会（☎512821・北浦荘内）までお願いします。



給食は、毎月第3火曜日に

1回目の給食のメニュー

- チンゲン菜のまぜご飯
- とり肉のわかめ巻
- ポテトサラダ
- くだもの



茨城県 ベスト16

津澄小サッカー スポーツ少年団

古河市スポ

少年団 惜敗 6月5日から開催された、全日本少年サッカー大会茨城県予選で、津澄小学校スポーツ



▲ 津澄小イレブン

少年団がベスト16まで進出した。これからはがんばって下さい。

庁内人事

保健衛生課・主幹 松下 利子（総務課・主幹）

住民課・主幹 鈴木 恵子（産業課・主幹）

保健衛生課・主幹 細内 好一（住民課・主幹）

出納室・主幹 近藤 芳子（総務課・主幹）

税務課・主幹 高柳 信哉（建設課・主幹）

税務課・主幹 方波見重徳（産業課・主幹）

産業課・主幹 野村 浩一（税務課・主幹）

住民課・主幹 大内由美子（出納室・主幹）

産業課・主幹 河野 一郎（住民課・主幹）

老人福祉センター・主幹 本沢 明（保健衛生課・主幹）

住民課・主幹 辺田 正行（老人福祉センター・主幹）

建設課・主幹 東野 敦雄（税務課・主幹）

総務課・財政係長 高橋 優（税務課・固定資産係長）

総務課・行政係長 内田 義一（総務課・財政係長）

住民課・住民係長 藤崎 昂久（総務課・行政係長）

税務課・納税係長 有馬 和子（住民課・福祉係長）

住民課・福祉係長 宮本喜久江（保健衛生課・国保係長）

保健衛生課・国保係長 埴 和枝（住民課・年金係長）

住民課・年金係長 菅谷はる子（税務課・民税係長）

税務課・固定資産税係長 山崎 勝広（税務課・納税係長）

税務課・民税係長 一条 善恵（住民課・住民係長）

総務課・主幹 代々城雅子（保健衛生課・主幹）

訂正

広報No.278号、6頁で根田清爾さんは、彰爾さん。5頁、宮本智恵さんは、智恵子さんの誤りです。お詫びして訂正いたします。



糖尿病シリーズ③

糖尿病と思われる症状と検査のすすめ

- こんな症状がないかどうかチェック
- ①のどが渇き、水やジュースなどをたくさん飲む
 - ②小便の回数が多くなり、一回に出る尿の量も増える
 - ③腹がすいていくくらでも食べられ、そのうえ甘いものが欲しくなる
 - ④痩せてくる
 - ⑤からだがだるくすぐに疲れ
 - ⑥化膿しやすく、しかもなかなか治りにくい
 - ⑦からだがかゆい
 - ⑧歯ぐきが弱くなり歯がぐらぐらする
 - ⑨足や手のシビレや神経痛がつづく
 - ⑩目がかすんで視力が低下する

③腹がすいていくくらでも食べられ、そのうえ甘いものが欲しくなる。
④痩せてくる
⑤からだがだるくすぐに疲れ
⑥化膿しやすく、しかもなかなか治りにくい
⑦からだがかゆい
⑧歯ぐきが弱くなり歯がぐらぐらする
⑨足や手のシビレや神経痛がつづく
⑩目がかすんで視力が低下する

①ふとらない
間食も含めて、食べすぎ、運動不足は肥満の原因になります。肥満は糖尿病などの成人病には大敵です。
②カゼでも早めの治療を
ウィルスや細菌による感染症は、糖尿病発病の引金となることがあります。たかがカゼと思っても油断をしないで早めの治療が必要です。
③余裕のある生活を
余裕のある生活というのは経済的にというのではなく、精神的に、ということですが、必要以上にクヨクヨ、イライラしたりするのは禁物です。
④やたらに薬を使わない
くすりの中には、糖尿病をひきおこすものもあります。サイアザイド系の降圧剤、リウマチやぜんそくなどに用いる副腎皮質ホルモンや避妊薬はその代表です。日本人はくすり好きといわれていますが、注意して使用することが肝要です。

予防のための日常生活

①ふとらない
間食も含めて、食べすぎ、運動不足は肥満の原因になります。肥満は糖尿病などの成人病には大敵です。
②カゼでも早めの治療を
ウィルスや細菌による感染症は、糖尿病発病の引金となることがあります。たかがカゼと思っても油断をしないで早めの治療が必要です。
③余裕のある生活を
余裕のある生活というのは経済的にというのではなく、精神的に、ということですが、必要以上にクヨクヨ、イライラしたりするのは禁物です。
④やたらに薬を使わない
くすりの中には、糖尿病をひきおこすものもあります。サイアザイド系の降圧剤、リウマチやぜんそくなどに用いる副腎皮質ホルモンや避妊薬はその代表です。日本人はくすり好きといわれていますが、注意して使用することが肝要です。

糖尿病とつきあう法

- ①症状に適した治療を行う
糖尿病の治療には、食事と運動療法、内服療法、インシュリン療法がありますので、医師の指示に従って、症状にあった治療を根気よく行うことが大切です。
- ②定期的に検査を受ける
医師の検査を規則正しく受けて、治療がうまくいっているかどうか確かめ、その後の療養を的確に行うことが肝要です。

8月の健康 テレホンサービス ☎0298-22-2600

8月のテーマ	
月	日
火	こわい低血糖
水	子どもにカゼをひかせないこつ
木	夏を乗りきる食事法
金	海でフラゲに刺されたら
土・日	中高年女性と性

スポーツの結果

- 第22回お父さんソフトボール大会 (6月12日)
- 優勝 武田小PTA(A) チーム
 - 準優勝 津澄小PTA(A) チーム

- 第20回ママさんバレーボール大会 (6月12日)
- 優勝 津澄小PTA
 - 準優勝 小貫小PTA
 - 第三位 三和小PTA
 - 第四位 繁昌クラブ
 - 第五位 北浦村役場

育てのいのちのいのち



河野 勇介くん(3ヶ月)とおかあさんの正子さん(三和)

はじめての子どもです。名前は家族みんなでつけました。お昼寝をしないので、夜、寝るまでが大変です。ねぐせが始まるとおばあちゃんに育ってほしいですね

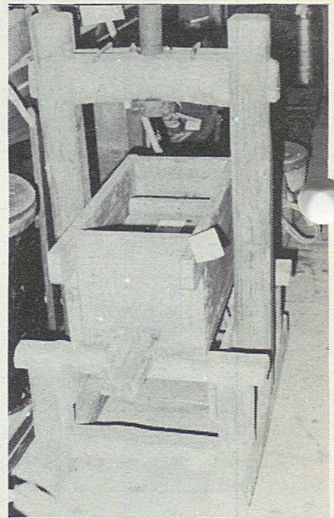
(5月16日育児相談で)

ふるさと民具

しょう油舟と豆腐舟

水田転作に大豆づくりを行う農家も見られるようになりましたが、以前は多くの農家で大豆を栽培していました。そして、この大豆は自家用のしょう油や豆腐の原料にもなつたのです。

農家では個人であるいは協同でしょう油づくりに必要な道具を設備していました。し



しょう油舟

ょう油は、およそ次のような方法で造られました。

まず原料は、一石(約一八リ)のしょう油で、大豆三斗(五四リ)・小麦三斗・塩・水三斗が必要です。初め小麦をいって粉砕します。そしてさめてから他のものと一つの桶に入れてかきまぜます。すると、モロミができます。しばらくしてモロミが熱つすると麻袋に入れて「しょう油舟」に移します。しょう油舟は圧縮機械で、麻袋に入れたモロミをここで圧縮すると、下の小さな穴からしょう油が流出してきます。これを釜で沸騰させ、泡立ちを除去しながら煮つめると出来上りです。

一舟一回(一番絞)で約三升(五・四リ)〜四升(七・七リ)のしょう油ができました。

* * *
豆腐づくりに使う豆腐舟も一種の圧縮機です。大豆は石

きたうら

(俳句) 高野 三千春 選

リハビリの頼りなき掌の蠅叩
歩行機の孫の目になり蠅叩
手の届くところには蠅叩
蠅叩夫の背の蚊も打ちにけり
新聞で蠅打つ父の日曜日
人と虫一勝負する蠅叩
打ち易き棕櫚の手作り蠅叩
佇ち出して行ってまで打つ蠅叩
蠅打ちて前髪少し乱しけり

仲居いみ子
飯島 秀子
横田 みつ
坂本 トク
土子 文江
高野 敬子
石上ちか子
羽生 まき
高野 都代

【評】第一句 早く良くなることを祈ります
第二句 おばあさんみたいへん
第三句 リモコンで動く蠅叩があったら……

公民館 だより

夏休みは図書室へ



公民館図書室では、一般図書に加え、夏休みの子どもたちのために、新刊書を多く揃えました。

夏休み。おおいに遊ぶとともに、おおいに本も読みましよう。

善意

武田小学校へ
○姿見―青木茂さん(両宿)から
○卒業記念作品入れ額―伊原多計守さん(次木)から
○雑巾一〇枚―武田地区交通安全母の会(代表東野サカエさん)から

あたりらしく入った本
日本の童話名作選・少年少女シートン動物記・どうわのみへ・学習漫画世界の歴史・現代の文学・今江祥智童話館自然さらさら・お化け博物館―いずれも全集・抜粋―

8月の

AUGUST カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

8月の主な行事
 1日 道路を守る月間(31日まで)
 15日 全国戦没者追悼式
 30日 防災週間(9月5日まで)

日	曜	時間	場所	行事	備考
8	月	受付 午後1時30分～2時30分	北浦村母子健康センター	育児相談	
9	火	午前10時～	長野江田園都市センター	老人健康相談	寿会
9	火	午前11時～11時30分	北浦村役場	犬及び猫の回収事業	保健衛生課
22	月	受付 午後1時30分～2時30分	北浦村母子健康センター	母子保健教室	後期
23	火	午前11時～11時30分	北浦村役場	犬及び猫の回収事業	保健衛生課
25	木	午前9時～	津澄小	母と子の料理教室	食改進
26	金	受付 午後1時30分～2時30分	北浦村母子健康センター	一般健康相談	

北浦村 成人式8月15日 北浦村 公民館

— 人口の動き —

住民基本台帳調(6月末)

人口	11,137
男	5,550
女	5,587
世帯数	2,450
転入	12
転出	12
出生	12
死亡	10

○ 農業空中散布をどう考えるかは、農業をどう考えるか、ということにまで行き着いてしまいます。稲作に限らず、農業は病害虫や天候との闘いの歴史でもあります。これをどう考えるか、これからのどうするか。農家のみなさんとともに検討していかなければならない問題です。

あとがき

魚を 見てみよう

茨城県内水面水産試験場 一般公開

茨城県内水面水産試験場では、内水面漁業の振興や漁場環境の保全、新魚種の導入など水産生物に関する試験研究を行っています。

試験場では、これら研究の施設を一般のみなさんに、下記の子定で一般公開いたします。

記
 日時 8月14日と15日
 午前8時30分から
 午後5時まで
 場所 玉造町甲1560
 連絡先 ☎ 0299-5-0324

映画会のお知らせ

題名 「ホピの予言」
 日時 8月20日(土)
 1回目午後3時から
 2回目午後7時から
 場所 北浦村公民館
 入場料 無料
 主催 ホピの予言上映実行委員会(連絡先☎5-1777 鴨志田)
 内容 アメリカインディアン、ホピ族の地からウラン鉱が。土地を追われるホピ族。そして、長老達はその後の世界を予言していた。

